

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第23回総合企画専門委員会の概要について(報告)

1 開催概要

- (1) 日 時 平成30年10月24日 (水) 14:00~16:00
エスポワールいわて3階特別ホール
- (2) 出席者 委員8名 (1名欠席)
- (3) 審議事項等
 - ① 岩手県次期総合計画「長期ビジョン」(中間案)について
 - ② 岩手県次期総合計画アクションプラン【復興プラン(仮称)】
(中間案に向けた復興局原案)について

2 審議概要

(1) 岩手県次期総合計画「長期ビジョン」(中間案)について

[谷藤委員]

- ・ 復興課題の中には、人口減少をはじめとする震災前からの課題である場合もあるので、策定していくうえで、常に意識しておいてほしい。

[豊島副委員長]

- ・ 第6章のプロジェクトの必要性や重視する視点等、プロジェクトを策定するに至った経緯が分かる記載をしてほしい。

[中村委員]

- ・ 第6章のプロジェクトには、通常施策ではカバーすることのできないものを、総合的かつ抜本的に新しい視点から打ち出してほしい。

[平山委員]

- ・ 第6章の三陸防災復興ゾーンプロジェクトにおいては、三陸地域の広域での連携を活かした取組を入れてほしい。

[広田委員]

- ・ 人口減少と少子高齢化は岩手県の最重要課題であるため、その危機感を表現していくことが必要と考える。
- ・ 未来のための伝承・発信については、復興の姿を見せることだけではなく、震災時に国内外から非常に手厚い支援を受けた事への感謝として、国内外に貢献する姿勢が重要である。

[南委員]

- ・ 県の課題の中で、復興特有の課題と人口減少等の通常課題が混在してきているので、対応すべき震災における課題を特定して取り組んでいく必要がある。

[若林委員]

- ・ 少子高齢化社会の中で、健康という視点が注目されると考えるので、健康寿命の記載を厚くしてほしい。

(2) **岩手県次期総合計画アクションプラン【復興プラン（仮称）】**
（中間案に向けた復興局原案）について

[若林委員]

- ・ 防災の分野ではソフト施策も重要なので、消防団員確保のための工夫が必要だと考える。

[南委員]

- ・ 未来のための伝承・発信については、完成された教訓・伝承の仕組みがあるわけではないので、試行錯誤の取組であることを意識した方がよい。

[平山委員]

- ・ まちづくりのにぎわい創出や人口減少対策など、課題の裾野が広がってきていることから、広く課題解決の施策を盛り込んでほしい。

[中村委員]

- ・ これまで8年間の取組で残された各分野の課題に今後4年間でどのように対応していくのかという部分が見えにくい。仮設入居者・仮設商店街の課題や復興事業の縮小に伴う被災地経済の落ち込みなどの課題への対応など可能な部分は書き込んでほしい。
- ・ 被災地の通学定期の半額助成については、沿岸地域の利用者からは非常に大好評であるので、通学定期の支援についても記載してほしい。

[豊島副委員長]

- ・ 「三陸ブランド」の確立のため、衛生品質管理の高度化、トレーサビリティの確立、製品の安定供給に加え、今後も様々な工夫した取組を進めてほしい。

[齋藤委員長]

- ・ 今年度末で震災から8年を迎え、1つの区切りではあるが、復興はまだ道半ばである。復興プランの取組と合わせて、これまでの復興計画の検証を行っていく必要がある。